

監 査 報 告 書

令和元年 8 月 22 日

大学評価コンソーシアム

代表幹事 小 湊 卓 夫 殿

監査人

浅 野 昭 人

印

大 川 一 毅

印

※web 公開用書面につき印省略

私ども、監査人は、大学評価コンソーシアム（以下、コンソーシアム）の平成 29 事業年度（平成 29 年 8 月 26 日から平成 30 年 8 月 24 日まで）および平成 30 事業年度（平成 30 年 8 月 25 日から令和元年 8 月 23 日まで）の業務について監査を実施しました。

その結果につき、次のとおり報告します。

1. 監査方法の概要

私ども、監査人は、幹事の業務執行の状況に関する監査（業務監査）に当たっては、幹事が行う諸活動に関する情報提供を受け、必要と認める場合には質問を行いました。

2. 監査の結果

コンソーシアムの活動については、会則および第 2 期活動方針、運営に関する指針にもとづき、適正に執行されていると認めます。

以上

別添

1. 組織の目的と活動内容

大学評価コンソーシアム（以下、コンソーシアム）は、組織の目的として以下3点を掲げている。

- 1) 大学評価やIRなどの活動を通して、大学の教育、研究、諸活動の充実につなげるための支援を行う。
- 2) 実践を基本として、役に立つ知識・スキルや事例の蓄積を勉強会や情報誌を通して共有する。
- 3) 大学評価やIRなどに携わるすべての人（大学、評価機関、行政機関等）に役に立つ活動とする。

コンソーシアムは、上記目的に基づき、平成29事業年度（大学評価担当者集会2017の終了直後）から5年間（大学評価・IR担当者集会2021の終了時まで）の行動計画として、以下2つを掲げている。

行動計画1：本コンソーシアム会員に対して、大学評価・IR業務の効果的な推進、並びにこれらの業務を通じて大学の改善を図るために必要とされる知識・技能の向上に資する支援を行うとともに、会員が相互研鑽を図れる場を提供する。

行動計画2：評価人材の能力・スキルを明らかにし、評価人材が大学の改善のために効果的な支援が行えるような具体的なテーマを設定し、目的を明確にした評価人材の育成、資質の向上を図る。評価人材やIR人材に必要な能力・スキルを更に明確化し、それらの能力・スキルを会員がより効果的に獲得できるよう内部質保証、FD、SD、研究マネジメント、データ処理・データ分析などに関連する人材育成を行う団体との連携を図る。

これらの行動計画をもとに平成29年8月26日から令和元年8月23日までの2年間の活動結果は以下の通りであることが報告された。

(1) 催し物の部

平成29年10月27日（金）

IR実務担当者連絡会 明治大学（東京）

[報告数：10件 参加者：61名 満足度：91.3%]

平成30年3月2日（金）

継続的改善のためのIR/IEセミナー2018 九州工業大学（北九州）

[参加者：162名 満足度：97.1%]

平成30年3月2日（金）

IR実務担当者セッション（*）九州工業大学（北九州）

[報告数：8件 参加者：73名 満足度：94.5%]

*継続的改善のためのIR/IEセミナー（平成30年3月2日）の一部として実施

平成30年8月22日（水）－24日（金）

大学評価・IR 担当者集会 2018 九州工業大学（北九州）

[参加者：784名 満足度：95.0%]

平成 30 年 8 月 24 日（金）

IR 実務担当者セッション（*） 九州工業大学（北九州）

[報告数：14 件 参加者：128 名 満足度：88.2%]

*大学評価・IR 担当者集会 2018（平成 30 年 8 月 22 日－24 日）の一部として実施

平成 30 年 11 月 2 日（金）

IR 実務担当者連絡会 三重大学（三重）[指標セッション含む]

[報告数：9 件 参加者：82 名 満足度：93.1%]

平成 31 年 3 月 8 日（金）

継続的改善のための IR/IE セミナー 2019 九州工業大学（北九州）

[参加者：170 名 満足度：98.1%]

平成 31 年 3 月 8 日（金）

IR 実務担当者セッション（*） 九州工業大学（北九州）

[報告数：11 件 参加者：146 名 満足度：98.3%]

*継続的改善のための IR/IE セミナー（平成 31 年 3 月 8 日）の一部として実施

令和元年 8 月 22 日（木）－23 日（金）

大学評価・IR 担当者集会 2019 神戸大学（神戸）

[参加者：402 名予定]

令和元年 8 月 22 日（木）－23 日（金）

IR 実務担当者セッション（*） 神戸大学（神戸）

[報告数：12 件予定 参加者：160 名予定]

*大学評価・IR 担当者集会 2019（令和元年 8 月 22 日－23 日）の一部として実施

※満足度は 5 段階で肯定的な 2 つの段階に回答した者の割合である。

（2）出版物の部

情報誌「大学評価と IR」（平成 27 年 2 月発行）

<http://iir.ibaraki.ac.jp/jcache/index.php?page=lib>

評価と IR に関する実践事例などを年 4 回発行予定するもので、平成 29 事業年度および平成 30 事業年度は以下の 2 号を発行し、計 8 編の事例報告などが掲載された。

第 9 号 [平成 30 年（2018 年）12 月 14 日]

第 10 号 [平成 31 年（2019 年）5 月 15 日]

また平成 30 年 3 月に投稿区分と査読手順を一部改正し、令和元年 6 月には、第 11 号からは、実践知を共有するためのプラットフォームというコンセプトはそのままに、会員からの投稿は一時休止し、依頼原稿および大学評価コンソーシアムの活動成果の提供を中心に発刊を行うこととしている。

2. 監査人の所見

- ・ 評価人材、IR 人材相互間の情報交換、育成・資質の向上を目的とした連絡会や勉強会等を多数開催（共催を含む）している。大規模な大学評価・IR 担当者集会、中規模な IR/IE セミナー、小規模な IR 実務担当者連絡会をほぼ定期的で開催しており、784 名が参加した。また現在準備中の大学評価・IR 担当者集会においても約 400 名が参加予定である。アンケート結果（平均満足度：88.2～98.3%）から推察するに、会員のニーズに応える時宜を得たものであったと考えられる。また、本コンソーシアムに関わる幹事、会員が、大学評価や IR に関わる各種シンポジウムや講演、研修等に、しばしば登壇している。このことは、評価人材の育成・資質の向上を目的とした本会の成果を如実に反映しているものといえる。
- ・ 最も大きな活動企画である大学評価・IR 担当者集会の開催にあたっては、幹事会を複数（4 回）開催して議論を重ね、綿密な準備を行っているとの報告を受けている。企画については、会員のニーズを考慮して検討していると思われるが、会員数が 731 名（平成 29 年 8 月現在）から 1,135 名（令和元年 8 月 14 日現在）ということ踏まえると会員のニーズも多様化しているのではないかと、ということも考慮しなければならないだろう。
- ・ 情報誌「大学評価と IR」が、本監査対象期間である平成 29 事業年度、平成 30 事業年度において 2 部しか発行されず、やや事例の整理、公表という観点では鈍化が発生しているように見受けられる。「各現場の知見を共有知化する」ための情報誌の発行については、編集プロセスの再構築についての取り組みは既に報告を受けているが、我が国の大学評価や IR を通した大学マネジメントの高度化に資するための一層の改善を期待したい。また、今後の方針については、必要に応じて会員への適切な情報発信を求めたい。
- ・ いずれの取組みも、参加費等を徴収せず、全て無償で開催されている。無償による開催は、評価に携わる多くの関係者に広く研修の機会を提供するという点において意味を持っているが、組織の持続的・発展的存続を考慮した場合、その運営経費をどのように捻出するのかは、引き続き検討すべき課題である。
- ・ これにあたっては、スタッフの負担、資金の問題などを踏まえ、発足以来、本コンソーシアムが展開してきた大学評価担当者、IR 担当者などをつなげる仕組みづくりについて、これまでの継続性を尊重・考慮しつつも、次局面に向けた新たな考え方や進め方について積極的な検討・提案があることを期待する。